２）展示内容を構築するうえで留意した点（歴史系博物館として）

①「展示は現代の視点に立脚し、民衆生活史を基調とする」

②「一国史」にしない　国際的視点の重視（列島を孤立させない）

③ジェンダー的視点での展示批判を行い、少数民族の視点を組み込む

④環境史を組み込む（自然と人間の相互関係の歴史）
　技術史（道具の陳列終わらない　技術史は展示が難しい）

⑤歴史と真摯に向き合う

①「展示は現代の視点に立脚し、民衆生活史を基調とする」

「民衆」は「特定の階層の歴史に偏しない」という意味

〇人物史（英雄の歴史）ではない

（聖徳太子も徳川家康も個人としては取り上げない）

〇列島上で生活・生産した人びと・列島に訪れた人びと・列島上を移動した人びとの「生活文化の歴史」が基本

〇現在からの視点を重視する

資料収集も含めて「現代」を歴史で叙述する努力

「過去がわかる」は当たり前

⇒「今（＝自分たちの歴史的立ち位置）がわかる」へ

②「一国史」にしない
国際的視点の重視（列島を孤立させない）

〇古代における「環海地域」の人・もの・情報・技術の動きに注目する

〇近世の朝鮮通信使・琉球国王の使節から、近世の国際関係を考える

〇近代の日韓の「海をめぐる民俗」の比較

現在、韓国国立民俗博物館で開催中の

「昆布とミヨクー潮香るくらしの日韓比較文化誌」

⇒<u>東アジアとの歴史的関係の深さを重視</u>する

（欧米中心の歴史観だけでは捉えられない）

〇世界の博物館（とくに歴史系博物館）との交流を
進めることを重視する

海外にある日本関連資料はきわめて多く、かつ「危うい」
日本を研究する学芸員（研究者）の減少＝後継者がいない！
いまだに、ステレオタイプの「日本文化」展示、あるいは「サムライ」展示！
そうでなければ、ポップカルチュアのみ
そして、早晩「収蔵庫の肥やし」へ

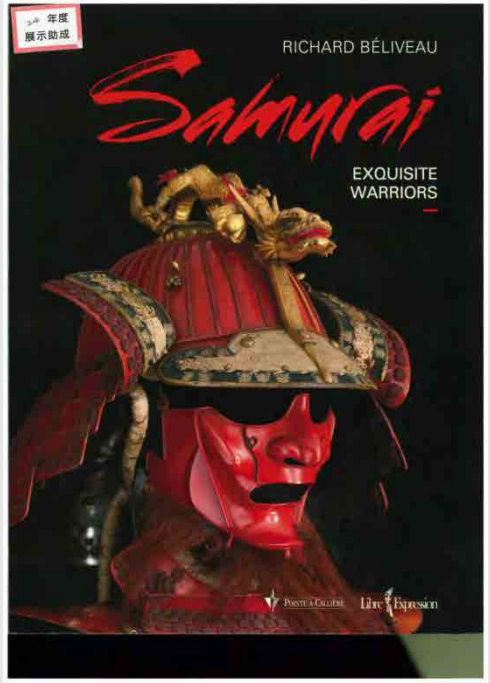
〇2016年企画展示「よみがえれ！シーボルトの日本博物館」で
なにがわかったか？

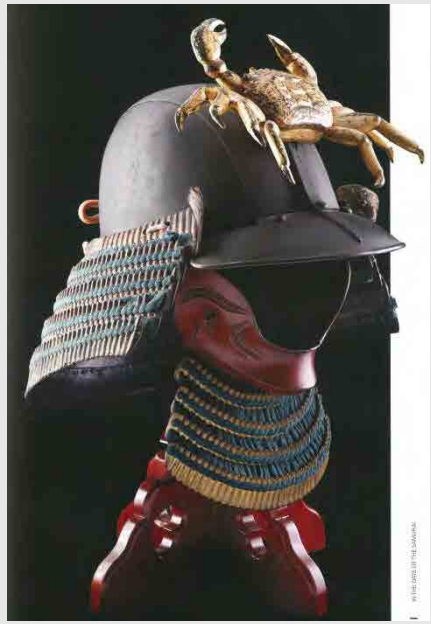
今の日本では検証できない、「シーボルト来日の時期」に
たしかに使われていたもの、売られていたものの時期を特定する
「規準資料」が海外にはある

海外での武士展示

Japanese National Treasure exhibited at
:e-à-Callière in 2006: a Kofun-era earthenware
ior clad in armour made of lames laced
ther with leather thongs.

This armour laced with purple – a rarely used
lour – is one of the most spectacular pieces in
e collection.





大英博物館での展示

日本展示室エントランス
「時を刻む」から中を望む
＊国立歴史民俗博物館研究報告№140
「歴史展示における「異文化」表彰の基礎的研究」より
©The British Museum

「近代日本―武家・公家・町人」導入部分

③ジェンダー的視点での展示批判を行い、少数民族の視点を組み込む

〇北方少数民族の歴史と南島の歴史

アイヌをはじめとする北方の少数民族の歴史・文化

「伝統的な暮らしをとらえるだけではなく、彼らが先進的な世界と接触したときに生じた政治・社会・経済など文化の全面にわたる交流と摩擦を明らかにすること」の現代的意義」

〇南島については「日中両属の問題」を見過ごしてはならない

〇現在公開中の企画展示

「ハワイ：日本移民の150年と
憧れの島のなりたち」

→今後、ハワイ以外の移民先での記録をどのように
残し、記憶をどのように繋ぐかという点で
重要な課題を明確にしたと同時に、
このような移民の人びとからみた
「日本近代・現代」がどのようなものであったのか
についても考えさせるきっかけとなっている。

④環境史を組み込む
（自然と人間の相互関係の歴史）
技術史
（道具の陳列終わらない　技術史は展示が難しい）

⇒ここまでの①～④は、
多様な視点で多面的に歴史を考える
（考えていただく）ということでもある

⑤歴史と真摯に向き合う

戦争・公害・災害などについての展示をどうするか

３）展示の時期区分の考え方について

通史展示とテーマ展示との関係などについて

〇通史展示ではなく、したがって「教科書的」展示ではなく、　「テーマ型」展示をめざしたことの「功罪」

＝通史的叙述は難しいが、「テーマ」だけでも歴史の流れがわからない、あるいは自分が歴史のどこを観ているのかわからないという声が少なくない

〇「変革期の展示」の欠如とも関わる

「若干通史展示寄りに修正する必要がある」＝来館者が理解しにくい！

後述するように、「時期区分」の問題と関わる

〇「両論併記の展示」への「習熟」が必要

→暗記ものではなく、観客が自ら考えたり感じたりできる展示

「自主的・創造的な歴史の学び方」

〇時期区分について

5時代区分　「戦後歴史学」同様「原始（先史）・古代」「中世」『近世』「近代」「現代」

「移行期」の展示の仕方は課題のまま　第1展示室リニューアルで少し改善＝問題提起

★なお、総合展示は、一度構築すると更新が難しい　予算の問題！！

企画展示の成果を総合展示の部分的リニューアルに如何につなげるか

「いつ来ても、新しい発見があり、楽しむことができる展示」の場が必要

企画展示は、その一つではあるが、年に３回開催できなくなりつつある。
その代わりに、ミニ企画展示である「特集展示」を、館内3カ所で行って、どこかで、新しい展示を見ることができるようにしている
「くらしの植物苑」は年4回、季節の「伝統の植物」を展示している